

自然科学研究科 地球社会基盤学専攻 社会基盤工学コース

【授与する学位】修士（学術）

<p style="text-align: center;">大学（大学院）の目的</p> <p>金沢大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。</p>	<p style="text-align: center;">学類（研究科）の教育研究上の目的</p> <p>博士前期課程は、理学及び工学の基礎及び応用に係る自然科学系分野において、学類での基礎教育を進展させ、「総合性」及び「学際性」に富んだ職業人と研究者を養成すること並びに博士後期課程への基礎課程としての教育研究を行うことを目的とする。</p> <p>地球社会基盤学専攻は、環境の世紀ともいわれる 21 世紀に、地域・地球規模の環境を包括的に捉え、地球と社会が安心して共創できる地球・社会基盤整備に係る研究に必要な専門知識と実践的スキルを修得させるとともに、それらを総合的に応用する能力の育成を図り、国際社会で活躍できるプレゼンテーション・コミュニケーション能力、柔軟な課題設定・解決能力と実践能力を身につけた独創性豊かな研究者・技術者・教育者を養成する。</p>
---	---

ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）	アドミッション・ポリシー（AP）
<p style="text-align: center;">【修了認定・学位授与に関する基本的考え方（前文）】</p> <p>地球社会基盤学専攻は、環境の世紀ともいわれる 21 世紀に地球の成り立ちを解明するスキルをもつ人材或いは最先端の工学技術をもちいて多様な地域社会の未来を探究する幅広い局面における高い専門性と学際性をもつ人材を育成することが社会から期待されている。</p> <p>そうした人材を育成するために、本専攻では、所定の課程を修め、かつ研究指導を受けた上で、環境科学と社会基盤工学の分野を総合して新たな知見を得た場合や、情報学・人文科学などの観点も取り入れるなどして、学術的に重要な貢献を有する修士論文の審査、特定の課題の審査又は博士論文研究基礎力審査に合格した者に修士（学術）を授与する。</p>	<p style="text-align: center;">【教育課程編成に関する基本的考え方】</p> <p>地球社会基盤学専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、研究科共通科目（大学院GS基盤科目、北陸先端科学技術大学院大学との連携科目、創成研究科目、国際交流科目）、専攻共通科目群、コース専門科目（専門科目群と実践科目群）、課題研究、および博士研究調査を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた科目を開講する。教育課程については、その体系性や構造を明示する。</p>	<p style="text-align: center;">【入学者受入れに関する基本的考え方（前文）】</p> <p>21世紀における地球生命圏の保全、地域環境の形成及び社会基盤整備においては、われわれ人類の生存基盤となる地球、日常生活基盤となる社会及びそれらを取り巻く環境を対象に、理学と工学の両面から柔軟に思考できる能力が求められます。本専攻では明確な倫理観と論理的思考のもと、地球惑星科学・環境科学や環境工学、土木工学、防災工学、都市工学に関わる俯瞰的で幅広い基礎知識と特化した専門知識を有し、地域からグローバルまでさまざまな局面において、社会をリードする研究者・技術者・教育者を養成します。</p>
<p style="text-align: center;">【学生が身に付けるべき資質・能力】</p> <p>(1) 国内外の社会的要請や環境の変化に対応した幅広い学術的知識 (2) 技術者或いは研究者としての高い倫理観 (3) 地球の成り立ちの解明或いは社会基盤整備の高度化に必要な基礎知識 (4) 地球の成り立ちの解明或いは地球環境に配慮した安全・安心な社会基盤の創出に必要な調査研究などに関する専門知識と先端技術 (5) 専門知識と先端技術を活用した課題解決能力と実践能力 (6) 得られた成果を国内外にプレゼンテーションできる能力</p>	<p style="text-align: center;">【教育内容・教育方法（教育課程実施）に関する基本的考え方】</p> <p>1. 教育内容 (1) 倫理観を持った技術者・研究者を育み、国内外の社会的要請や社会環境の変化に対応した幅広い学術的視野を広げるため、大学院GS基盤科目を設置する。 (2) 社会基盤整備の高度化に必要な基礎知識を涵養するため、専攻共通科目（水工学系、構造工学系、地盤・耐震工学系、環境工学系、都市交通計画系に関する科目）を設置する。 (3) 地球環境に配慮した安全・安心な社会基盤を創出するために必要な調査・研究、計画・設計、施工・維持管理の基幹となる深い専門知識、先端技術及び実践能力を身に付けるため、コース専門科目（専門科目群と実践科目群）を設置する。 (4) 専門知識と先端技術を活用することで課題を解決し、得られた成果を国内外にプレゼンテーションできる能力を育成するため、課題研究或いは博士研究調査と国際交流科目を設置する。</p> <p>2. 教育方法 (1) 講義科目は、各専門分野の教員によって提供され、最先端の研究を理解するために必要な知識、考え方などを修得し、研究意欲の高揚を図り、その専門知識を問う試験等の結果をもって評価する。 (2) 演習・実験科目は、各専門分野の教員によって提供され、演習や実験のプロセスにおいて、論理的思考・ディスカッション・プレゼンテーションの能力等を滋養し、それらの達成度をもって評価する。 (3) 実習科目は、各専門分野の教員によって提供され、専門知識に基づく実践能力等を滋養し、それらの達成度をもって評価する。 (4) 課題研究にあたっては、主任指導教員・副指導教員を置き、多角的な視点から研究指導・助言を行う。 (5) 修士（学術）の取得を目指すものについては、当専攻の単位取得要件を満足しつつ、必要に応じて研究科内の他専攻、他研究科の科目の履修を推奨する。</p>	<p style="text-align: center;">【求める人材】</p> <p>科学的探究心に富み、これらの分野の専門知識を深めて活躍したいと考えている学修意欲のある人の入学を期待します。</p>
<p style="text-align: center;">【学修成果の評価】</p> <p>(1) 授業科目に対して成績評価の基準及び方法をシラバスに明示し、それに基づいて、学修成果を評価する。 (2) 修士論文、特定の課題、又は博士論文研究基礎力審査に対して審査基準と審査方法を明示し、それに基づき研究成果の審査及び試験を行う。</p>	<p style="text-align: center;">【選抜の基本方針】</p> <p>地球社会基盤学専攻は、学力検査（英語外部試験、筆記試験及び口述試験）及び学業成績証明書により、英語と数学、地球惑星科学の探求、地域環境の形成及び社会基盤整備の幅広い局面で必要となる知識に関する志願者の能力や資質を総合的に評価します。</p>	<p style="text-align: center;">【入学までに身に付けて欲しい教科・科目等】</p> <p>英語及び課程教育の基礎となる数学、並びに地質学、古生物学、岩石学、鉱物学、結晶学、地球環境学、地球年代学及び地球物理学、又は構造力学、水理学、土質力学、計画数理学及び環境工学等の習得が望まれます。</p>